

文部科学省「体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けた  
インターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議」

---

# インターンシップから日本型コーオペ教育を目指して

## ～京都産業大学における取組事例～

---

平成25年4月22日



経営学部 准教授  
(キャリア教育研究開発センター/進路センター運営委員)  
松高 政

## ■沿革

1965年 経済学部・理学部で開学 1967年 経営学部・法学部・外国語学部を増設  
1989年 工学部を増設 2000年 文化学部を増設  
2007年 経営学部にはソーシャル・マネジメント学科、会計ファイナンス学科を増設  
2008年 コンピュータ理工学部、外国語学部には国際関係学科を増設  
2009年 法学部に法政策学科を増設 2010年 総合生命科学部を増設

## ■建学の精神

将来の社会を担って立つ人材の育成。全世界の人々から尊敬され、全人類の平和と幸福のために寄与する精神をもった人間を育成。

## ■学部構成(学生数)(2012年5月1日現在)

学部全体 12,970名 大学院全体(法務研究科含む) 251名(後期課程:28名)

(学部内訳) 経済:2,775 経営:2,967 法:2,903 外国語:1,991(英米語学科・国際関係学科・ドイツ語学科・フランス語学科・中国語学科・言語学科(ロシア語専修・スペイン語専修・インドネシア語専修・イタリア語専修))  
文化:946 理:425(数理科学科・物理科学科・コンピュータ科学科) 工:153(情報通信工学科・生物工学科) コンピュータ理工:563 総合生命科:238

(大学院内訳) 経済学:9(3) マネジメント:32(9) 法学:35(9) 外国語学:6 理学:21(4) 工学:55(3)  
先端情報学:15 法務:43 経済学(通信教育課程):35

## ■教職員数

専任教員315名 専任事務職員201名 嘱託・契約職員(常勤)198名

## ■特色

1年次から4年次まで、文系理系問わず学部・大学院全てが集結した一拠点総合大学。学部学科の交流が学びの可能性を広げ、社会と「共創」するキャンパスで根幹的な力を養っている。

## キャリア形成支援教育 = 「建学の精神」の具現化



創設者  
初代総長  
荒木 俊馬



昭和四十年入学式告辞  
 創立五十年の入学式に当  
 り、私の所信の一端の述べ  
 て告辞と致します。  
 本学に志願された諸  
 君も、又御子弟と本  
 学に誂せられた御兄弟の  
 本学を控はれた所は、の  
 もは、学校要覧に  
 要約しておきました本学  
 の建学精神と教育の  
 方針に賛同されたからだ  
 と思います。私が本学の

### 【京都産業大学 第1回入学式告辞】（昭和40年4月21日）

本学は**産学協同を实践する総合大学**の完成を最終目標と致しますが故に京都産業大学と名付けました。今や大学は青白きインテリのたてこもる象牙ぞうげの塔であってはなりません。

**現実の産業界と密接な連繫を保ちつつ理論と実際との融合した教育**に依って**卒業後直ちに実社会に役立つ実力を身につけ**、日本将来の産業界を双肩に荷負うて立つ、そういう自信に満ちた人材の育成が本学の使命であります。



京都産業大学

## むすびわざ

♪学歌♪

神山(こうやま)の その本山(もとやま)に  
産業(むすびわざ) 学び勤(いそ)はく

産業(むすびわざ)・・・結びつけ、産み出す  
勤(いそ)はく・・・産業(industry):勤勉

キャリア形成支援教育の担当部署「キャリア教育研究開発センター」英文名  
**Center of Research & Development For Cooperative Education**

大学教育



結びつけ



実社会

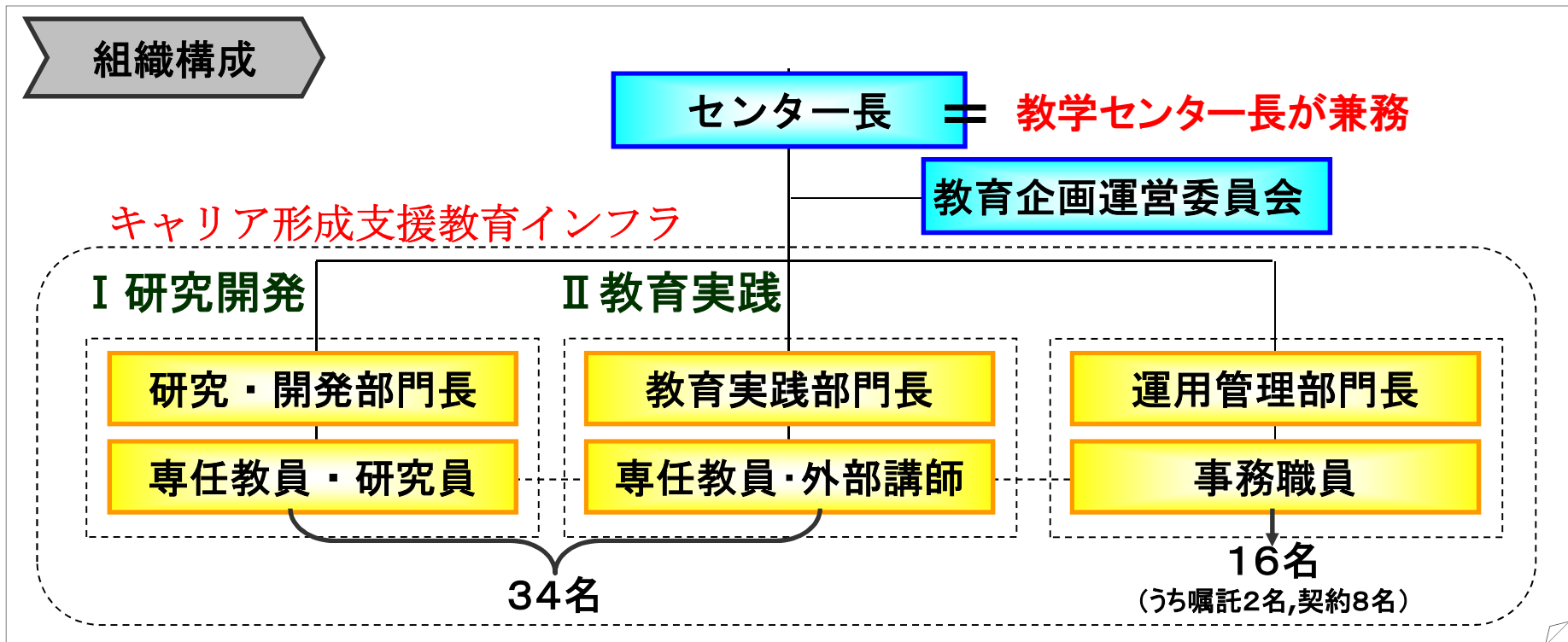
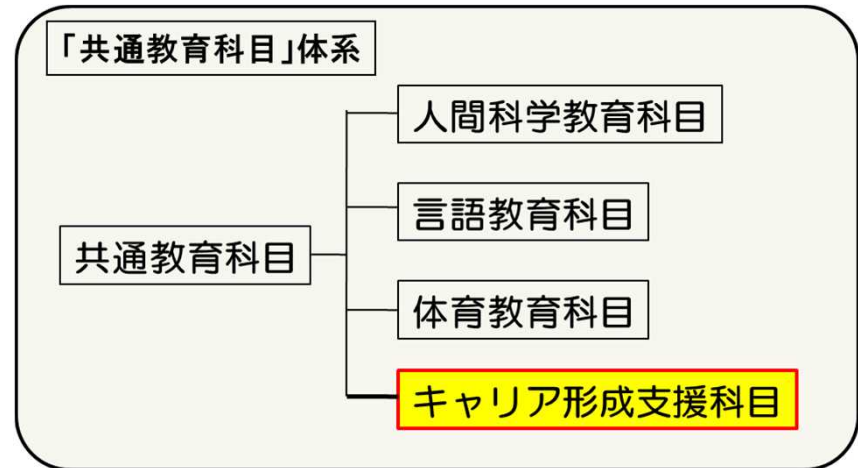
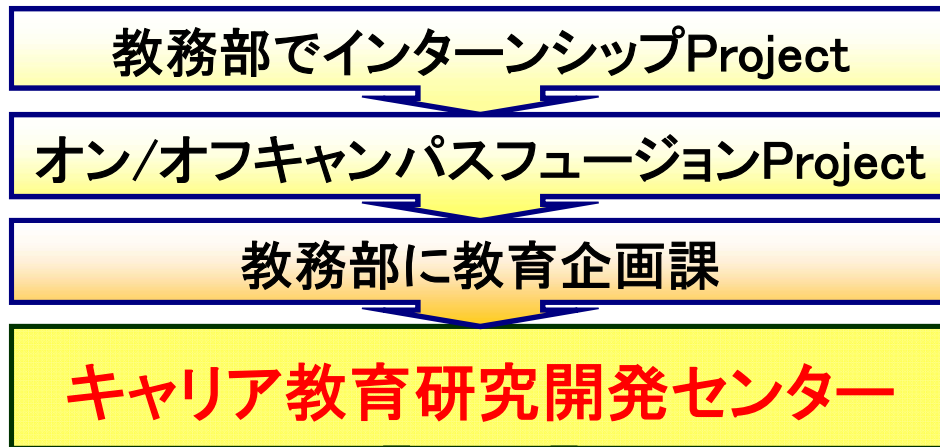
学びに  
勤しむ

産学協働教育(Cooperative Education)

# 平成24年度キャリア形成支援科目 概要

4

No.	科目名	科目概要	配当	履修者
1	自己発見と大学生活	大学入学という人生の1つの節目をキャリアデザインへの大きなステップと捉え、大学生活、その後の社会や仕事、働くことについて受講生同士、担当教員とともに考える。	1	1,499名
2	大学生活と進路選択	自分自身と将来を考え、今だからこそ身につけておくべきこと、考えておくべきことを取り上げる。それらのテーマを自らの問題として取り組み、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意思で行動する場とする。	2	305名
3	自己発見とキャリア・プラン	3年次生春学期において、自分自身の問題・課題を発見し、解決のためのプランを立て、しっかりとした職業観を持つことで、進路・就職活動に対する学生諸君の不安材料を取り除き、目指す企業・目指す進路への志向性と自己実現への取組みを高めさせるための講義。	3	1,097名
4	スタートアップ・インターンシップ	主に地域の中堅・中小企業で就業体験とフィールドインタビューを行い、実学的専門教育と実社会との結び付きを低学年のうちから実感させ、学びを深めるものである。さらに、地域の中堅・中小企業への関心を涵養し、進路選択の選択肢として視野に入れさせる。	1	33名
5	企業人と学生のハイブリッド	中堅・中小企業の若手社員と学生をハイブリッド(混成)し、学生はリアルな仕事の流れを体感でき、若手社員はリーダーシップ等が身につくと同時に、自分自身、自社へのプライドなどを再認識し、モチベーションアップへもつなげる。学生の就業力育成と若手社員の研修という、企業・大学双方にメリットをもたらし、早期離職の抑制にもつながる。	2	30名
6	就業力総合実習	就職活動を経て一回り成長した学生こそ、より実践的な就業力の獲得が可能になる。そこで、キャリア形成支援科目等を受講した4年次生が、高等学校等で取り組まれているPBL型授業、本学のキャリア形成支援科目等に参加、協力し、自らの経験を先輩達の学習に活かしていく。	4	3名
7	実践フィールドワーク(春学期)	中堅・中小企業を中心にフィールドワークを行い、職業人の話を聞く機会を設ける。自分の目で見て感じたこと、気づいたことをディスカッション、ディベート、グループワークを通し、自らの職業キャリアをより現実的かつ深化したかたちでデザインしていく内容である。平成23年から、フィールドワーク先を増やして新入社員とのグループワークを導入し、実践的な科目とする。	1	48名
	実践フィールドワーク(秋学期)			39名
8	インターンシップ1(国内)	大学コンソーシアム京都が企画するインターンシップ・プログラム。企業や行政機関及びNPO・NGOの機関等において2週間から1ヶ月の就業体験を行う「教育プログラム」。受入先では正社員もしくは準社員として実習を行う。受入先部門は管理・総務・企画・営業等多岐にわたる授業。	2・3	12名
9	インターンシップ2(国内)		2~4	7名
10	インターンシップ3(国内)	講義目的(要旨) 本学独自の人材育成プログラムで、教室内で行うプレ・インターンシップとアフター・インターンシップの研修を含めて行う一貫した就業体験科目。	3	140名
11	インターンシップ4(海外)	講義目的(要旨) 本学の建学の精神である「世界に雄飛する人材の育成」をさらに具現化するため、その海外最前線での就業体験を本学学生が行うことで、人生観・職業観を養い、自らの生き方を見極める場を提供することを目的とした本学独自の海外で行うインターンシップ科目。	2・3	9名
12	インターンシップ5(自己開発型)	企業や行政機関が独自に募集を行うインターンシップや、全国の経営者協会が『ハイパー・キャンパス・システム』を通じて斡旋する事業所等でのインターンシップの中から、希望するインターンシップ先を自ら探し出し、インターンシップの認定許可を得てくる自主的かつ積極的な活動をバックアップすることを目的とした科目。	2・3	20名
13	インターンシップ6(地域コオプ)	京都市内をエリアとしたフィールドワークを自ら計画・実施する。テーマも各自が自主的に設定する。現場・現実・現物など生の情報から学び取っていくことに力点を置き、事前学習・実習・中間学習・レポート作成・報告(発表)を行う科目。	2	11名
14	21世紀と企業の課題	産業界の第一線で活躍されている本学卒業生をゲストスピーカーとして招聘し、業界最前線の動向や21世紀における企業や職業人のあり方・課題、求められる戦略や必要とされる人材像などについての最新・最先端の現場の情報を伝える科目。	2・3	170名
15	キャリア・Re-デザイン I (春学期)	大学から職業世界への移行に困難を抱える学生を対象とし、自己開示～自己概念の確立～社会への目線づくり～キャリア意識の再構築というプロセスをたどることで、受講生のキャリア形成を支援する。	2~4	51名
	キャリア・Re-デザイン I (秋学期)		1~4	116名
16	O/OCF-PBL1	学び修得した知識を実社会で活用するために必要な能力を育成するためのコオプ教育として展開、1~3年の3年間一貫して実施する。大学での学びと実社会での学びとを融合させ、その手段として企業などから提供された課題に挑戦する実践指向型の課題解決方式をとる。担当者のコーチを受けながら、チームプレーで課題解決を目指す。1は社会人を対象にしたキャリアインタビュー(秋学期)、2・3は2年・3年次生の受講生がチームを組み、2年次はフォロワー、3年次はリーダーの役割を演じながら、ロール・プレーイングを通して課題を解決する。	1	206名
17	O/OCF-PBL2		2	110名
18	O/OCF-PBL3		3	10名
合計(概算)				3,916名





# インターンシップ科目の種類と特長

科目名	インターンシップ1	インターンシップ2	インターンシップ3	インターンシップ4	インターンシップ5	インターンシップ6 (地域コーオプ)	
特長	(財)大学コンソーシアム京都が主催するインターンシップのビジネス(ベンチャーを含む企業)コース。京都の50大学・短期大学で組織する団体だけに、京都の主要企業でインターンシップができる可能性がある。反面、本学学生が選ばれる保障はない。	(財)大学コンソーシアム京都が主催するインターンシップのパブリック(行政機関、NPO・NGO団体)コース。京都の50大学・短期大学で組織する団体だけに、京都の主要企業でインターンシップができる可能性がある。反面、本学学生が選ばれる保障はない。	本学独自の国内インターンシップ。教室内で行う、プレ・インターンシップで、社会人として最低限必要なマナーと、プレゼンテーション能力を養う。実習先は、本学キャリア教育への理解や協力を得られる企業・NPO等、120社である。	本学独自の海外インターンシップ。プレ・インターンシップの内容は国内のプログラムに海外マナーや危機管理の講義が加わる他、マイ語学学習プラン(教員と相談して自分の能力に合わせた自習プラン)等が加わる。一般企業その他、日本語教師のアシスタントもある。  ニュージーランド/シンガポール/ロシア/オーストラリア	自己開発型インターンシップ。企業が公募するインターンシップや各都道府県の経営者協会等の仲介するインターンシップに応募して、大学が定める条件を満たした者に単位を付与する。学内で行うプレとアフターのインターンシップも夏期休暇期間中に集中講義。	ANA 総合研究所/ウィザード/和研薬 ほか	京都市内をエリアとしたフィールドワークを小グループで計画・実施する。テーマも各自が自主的に設定する。京都市には不思議でワクワクする題材が豊富である。成果をラジオ放送で発表する機会がある。  テーマ例: 京都の老舗の動き、京セラ創業からの歴史・功績、寺社の拝観料
配当学年	2・3年次生	2～4年次生	3年次生のみ	2・3年次生	2・3年次生	2年次生のみ	
単位	2	2	4	4	2	2	
担当教員	1名		9名	1名	1名	1名	
受講生	11名	5名	155名	10名	12名	11名	
実習期間	夏期休暇中に2週間以上		夏期休暇中に2週間以上	夏期休暇中に1ヵ月程度	夏期休暇中に2週間以上	春学期中適宜指示	

【2012年度受講現状】

2012年度応募者合計			単位:名	2012年度許可者合計			単位:名	2012年度許可率合計			単位:%
男	女	計		男	女	計		男	女	計	
経済学部	57	17	74	経済学部	18	11	29	経済学部	31.6%	64.7%	39.2%
経営学部	73	46	119	経営学部	32	22	54	経営学部	43.8%	47.8%	45.4%
法学部	35	13	48	法学部	21	5	26	法学部	60.0%	38.5%	54.2%
外国語学部	7	20	27	外国語学部	2	8	10	外国語学部	28.6%	40.0%	37.0%
文化学部	9	21	30	文化学部	4	12	16	文化学部	44.4%	57.1%	53.3%
理学部	3	2	5	理学部	1	1	2	理学部	33.3%	50.0%	40.0%
コンピュータ理工学部	3	0	3	コンピュータ理工学部	2	0	2	コンピュータ理工学部	66.7%	0.0%	66.7%
総合生命科学部	0	1	1	総合生命科学部	0	1	1	総合生命科学部	0.0%	100.0%	100.0%
合計	187	120	307	合計	80	60	140	合計	42.8%	50.0%	45.6%

【受講生数の推移】

年度	IS1	IS2	IS3	IS4	IS5	IS6	IS 合計
2011	11	5	155	10	12	11	204
2010	11	3	160	12	6	16	208
2009	7	1	138	11	9	10	176
2008	11	3	151	15	8	33	221
2007	15	10	189	17	14	32	277
2006	16	8	174	16	17	38	269
2005	17	11	169	14	23	20	254
2004	17	9	157	20	13	-	216
2003	33	15	109	21	-	-	178
2002	30	5	107	10	-	-	152
2001	33	3	-	-	-	-	36
2000	35	4	-	-	-	-	39
1999	42	1	-	-	-	-	43
計	278	78	1,509	146	102	160	2,273



## 【参加実績】

年度	受入企業数	参加学生数
2010	120社	160人
2011	114社	154人
2012	114社	140人

## 【受け入れ先実績】

業界		2010	2011	2012
■	農・林・漁・鉱業	1	1	<b>1</b>
■	建設業	6	6	<b>4</b>
■	製造業	17	18	<b>20</b>
■	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	<b>1</b>
■	情報通信業	15	13	<b>15</b>
■	運輸業	5	3	<b>3</b>
■	卸売・小売業	16	23	<b>18</b>
■	金融保険業	10	11	<b>10</b>
■	飲食店・宿泊業	11	7	<b>8</b>
■	医療・福祉	2	2	<b>2</b>
■	教育・学習支援業	2	2	<b>4</b>
■	複合サービス業	2	1	<b>1</b>
■	サービス業	29	24	<b>25</b>
■	地方公務員	4	3	<b>2</b>
合計		<b>120</b>	<b>114</b>	<b>114</b>

- 毎年、受け入れ企業の**60～70%**を教職員が直接訪問し、受け入れ要請・御礼とプログラムについて確認
- 学生に受け入れ全企業とプログラム内容を説明
- 実施後、受け入れ企業との意見交換会を実施
- 事前授業(**14コマ**)、事後授業(**5コマ**)を**9人**の教員で担当(専任**7名**、非常勤**2名**)

## 【参加実績】

年度	受入企業数	派遣実習生数
2010	9社	12人
2011	6社	10人
2012	6社	9人

## ■アメリカ

運輸業／ハワイ 金融業機関／ロサンゼルス 不動産会社／ロサンゼルス 貿易会社／ニューヨーク  
ホテル／ロサンゼルス 旅行業／サンフランシスコ, ハワイ NPO法人／サンフランシスコ

## ■イギリス

大学事務／オックスフォード

## ■イタリア

大学事務／ペルージャ

## ■オーストラリア

介護福祉施設／ブリスベン 航空会社／メルボルン 政府機関／ブリスベン 出版業／ブリスベン  
小学校(日本語教師アシスタント)／ブリスベン 職業訓練学校／ブリスベン  
政府系航空訓練施設／ブリスベン 大学(日本語教師アシスタント)／ブリスベン  
中学校(日本語教師アシスタント)／ブリスベン 日本語学校(授業サポート)／ケンモア  
不動産／ブリスベン ホテル業／ゴールドコースト 旅行業／ブリスベン, メルボルン

## ■カナダ

旅行業／バンクーバー

## ■シンガポール

旅行業／シンガポール

## ■中国

旅行業／上海 商社／西安

## ■ニュージーランド

カーオークション会社／オークランド 高等学校(日本語教師アシスタント)／オークランド  
公認会計士事務所／オークランド 小売業／パーマストンノース, オークランド  
スポーツウェアメーカー／オークランド 大学(日本語教師アシスタント)／クライストチャーチ  
ホテル／オークランド 旅行業／オークランド, シドニー

## ■メキシコ

モータサイクルメーカー／メキシコシティ

## ■ロシア

旅行業／モスクワ

大学と社会とのサンドイッチ型(往還)教育プログラムのコンセプトを  
キャリア形成支援科目全体に展開

